

大いなる飛躍へ

 JA上川中央



愛郷地区
昔農昌人さん・深雪さん

2014
NO.73

4

発行・上川中央農業協同組合
愛別町本町125
Tel(01658)6-5311
URL <http://www.ja-kamikawa.or.jp/>
編集・営農振興課

貴重なご意見ありがとうございます 地区別農協懇談会 主要意見報告



3月14日 / 金富公民館 (金富・本町地区)

Q 需要は増え、評価も載っている。成分検査は毎年実施しており配達時に成分表を渡している。

A 特徴ある米づくしに対する支援内容は。

Q 昨年と同様のJA出荷1俵あたり100円の助成。

A 営農振興部門計画における離農等が進む中での対策、また女性農業者のJA運営参画促進に対する方策は。役員就任も含めて進めていくのが。

Q 女性の経営参画については、正組合員化を進めていきたい。一般社会情勢的にも進めていかなければいけない課題と認識している。

A 離農を止めていくには後継者も含め地域農業振興策を地域一丸となって構築することが重要となってくる。JAとして相談機能の強化をしていきたい。

Q 基盤整備事業により離農等が進むことが予想されるが受け皿づくり等の営農指導の考え方は。

A 相談機能の強化、組合員と共に歩んでいける方策を検討する。

Q コントラも含めて考えなければならぬのでは。

A 生産者が必要とすれば設立を考えると、通年雇用等の問題もあるので熟慮して自らが立ち上げていく必要性がある。TAC等相談機能の強化が必要と認識している。

Q もち・つるちの作付けに関しては拘束力がないが、愛別町のもち米生産者にはもち米生産を始めたときの原点に帰って考えていただきたい。最終的にはもち米生産者のモフルに頼らざるを得ないが、生産調整方針の作成はJAが主体となっていることにJA側の理解・対応が不十分だった。今後も同様の事案が出てきた場合の対応が心配だ。また、米の配分率が大きく変化することに関し、事前にJAから説明がなかったことは不満である。

A 米の配分については、これまでの経過から安易に判断してしまった。JAとして対応不足であり、JAからの情報開示が成されていなかったことについての批判も当然のことと重く受け止めている。

Q もち米からつるち米に作付けを変更することに對して、問題になっているようだが。

A 作付けを変更すること自体に罰則がないため強制できないが、早い時期に組合員と協議をすることが不足していた。

Q もち米団地のでつるち米の作付けについて問う。

A 今回の米の配分については、農業再生協議会や改善実施組合長・農事実行組合長会議での情報提供や議論が足りなかった点について、率直にお詫びしたい。今後については農業再生協議会が生産調整方針作成者（JA）に生産数量目標を配分し、生産調整方針作成者が方針参加者（農業者）に対して生産数量目標を配分し需給調整をする基本を十分認識し、JAがしっかりと基本方針を出し、JAの責任で協議を重ねるよう努める。

Q SCSの状況は。

A 平成26年度は38ヘクタールとなり、昨年の2倍程度の作付申込である。

Q 水張り転作（飼料米）状況について問う。

A 現在、飼料米の推進・営業拡大をしていくということにはなっていない。保管場所等の問題など課題が多い。今年度については加工米の対応として考えており、経過を見て飼料米については検討をしたい。

Q 加工米について、交付金が付かないと聞か。

A 昨年同様に交付金が付くが、複数年契約すると更に上積みされることになった。

Q 要望 米の配分についてはJAが生産調整方針作成者として責任をもった配分の基本方針を作成し、米生産者同士の調整役を担ってほしい。

Q 販 売

Q 農産物のブランド化について、品質等は良いので宣伝を行ってほしい。

A 安定供給を行い、生産量を確保するのが条件となり、品質等についても更

Q 「土んご」の効果及び成分検査について問う。

A 課をまたいで全体取り組みとして検討する。

Q 「土んご」の効果及び成分検査について問う。

A 課をまたいで全体取り組みとして検討する。

Q 「土んご」の効果及び成分検査について問う。

A 課をまたいで全体取り組みとして検討する。

なる指導を強化する。

Q JAが先頭に立ちリーダーシップを取らなから、組合員のJA離れが進んでくると思う。結果として、信用事業の減益につながっている。他のJAと比較して、当組合の手数料はどの程度なのか。

A JAの事業利益は信用事業に依存してきたことは事実であり、現在信用事業利益が減少傾向にある。一方販売手数料率は、作物によっては非常に低い水準にあり、管内でも低い手数料となっているのは事実。信用事業の分離が懸念される今日で、農業部門での収益構造確立が近々の課題であるため、内部で見直しを検討している。そのためには、利益構造の確立の為の新たな方法や、更なる販売強化に努力しなければならぬと思う。

また、手数料を改正した場合、JAに生産物を出荷する組合員の負担増となるため、配当は事業分量配当を優先に考え、利用者への還元を図りたいと思っている。

Q 飼料米の販売価格はどの位なのか。

A キロ30円程度の見込み。

Q 米の独自販売について問題か。

A 旭川食糧を通して、昨年からイオン店舗で販売を展開し、今秋よりAコープで扱いを開始する。

Q うるち米の今年の価格見込みは。

A 卸の在庫状況から、大変厳しい見込み。

Q Yesticleanに取り組む場合、価格差は他のJAとどの程度か。

A ここ数年評価されるようになってきており、品代300円程度に町とJAから助成金が出るようになってくる。

Q もち米の状況を伺いたい。

A 25年産については500円の追加払いを予定しており、3月中に支払う予定。今後の販売状況は若干ながら動きが出てきているが、26年産の作付面積及び作柄により大きく変動する。

Q Yesticlean米の作付面積はどのよう状況なのか。

A 今年度は40ヘクタールほど増える見込み。

今年より、ゆめぴりかのYesticleanに取り組み愛別町産としてイオンで販売することが決定している。取組面積は未定である。

米については厳しい環境だが売れる米を作っていくかなければならない。

Q ミニトマトの規格について生産者に周知願いたい。(規格外の扱い)

A 部会を通して周知する。

Q 愛別産そばで麻袋に愛一杯のネーミングを印刷しているが、米でも紙袋などにイメージアップを狙って印刷してはどうか。

A 地域のイメージキャラクターなどを利用して具体的に検討していく。

Q 飼料米供給による「ブランド牛」とあるが具体的に進んでいるのか。

A SGSを含めて飼料米を活用した「ブランド牛」について検討を進めている。

Q 「ア・フード牛肉」とは何か。

A 首都圏コープでのアンガス牛販売の名称。

Q 重点項目に畜産担当部署の合理化と体制整備とあるが、合併してから営業販売課の体制で、統括・責任者・担当者誰なのか分かりづらい。また今年度、畜産振興会が統合され、本支所どちらが中心となるのか。組合員の関わり方が分からない。

A 本所は担当課長補佐を中心として業務を行うが、支所とも連携して迅速に対応できる業務体制に取り組んでいきたい。

Q 愛山養豚団地の今後の状況はどのようになっているのか。

A 現在、飼料会社の紹介で養豚会社が施設利用に興味を示しているところで、新規事業に結びつくよう取り進めたい。

Q 農機利用事業についての内容は。

A 事業収支が大きく赤字となっており、今後については必要最小限の投資として縮小してまいります。

Q コンバインの利用条件はオペアキなのか。

A 基本的にオペアキだが、地域の意見を集約する。

Q 色選事業やヘリ事業の収支の詳細が組合員に知らされていないか。

A 色選事業については、利用加工事業の中で大枠については記載しているが詳細については記載していない。ヘリ事業については、25年度から(合)アグリスカイサポートに移管されたので

記載していない。今後、収支内容について周知する方法については検討する。

要望 米の色選施設については、JAとしての販売戦略、設備投資の費用対効果等の全体構想を立てて進めてほしい。

【資料】

Q 米価が上がらず、費用(肥料等)価格は増えている。不安な状態である。

A 今年肥料単価が若干下がる見通し。

Q 農機センターは赤字部門だが、今後も継続を願いたく、農家への出張ができていないので、増員についても考えていただきたい。修理費等が安いと思うので、もう少し値上げをしても良いと思う。

A 継続する。2人での対応であり限界がある。赤字部門であり事業展開を大きくする場合、他部門の利益を回さな



3月16日 / 東雲日の出会館 (東雲地区)



3月17日 協和コミュニティセンター(協和地区)

- Q 土壌診断結果の通知変更について聞こう。
- A 連合会へ対応について協議する。
- Q 消費税改正の関係で、配達済みの対応はどうなるのか。
- A 3月中旬に配達を行ったものは旧税率で対応する。
- Q 取りまとめ農薬は、どう配量予定か。
- A 3月中旬の配送を予定している。
- Q 4月からの消費税対応はどのようになるのか。
- A 商品の取引口で対応する。
- Q 燃料は安くならぬのか。また値下がり時に組合員に知りせよというべきなのか。
- A J A以外のGSとの絡みから難しい。また値下げ時の情報発信については今後検討したい。

「生活」

- Q Aコープは赤字部門ではあるが、閉鎖されると困る。高齢者の生活にも直結する問題であることから、存続に向けて検討願いたい。
- 地域の人々が減少している中、Aコープ事業が赤字となるのは仕方ないことと、そのマイナスを組合員がどの程度まで受け止めることができるかと思う。
- 愛別も上川も組合員に理解をしてもうし継続できないか。
- A Aコープ展開は、近隣でも東旭川と当組合のみとなっており、現在の赤字が続くと存続が厳しいが、愛別で閉鎖した場合、町内で生鮮食品を取り扱う店がなくなる。規模縮小・業務委託等協議が必要であると思う。
- 1000万円ほどの赤字まで収支改善ができれば組合員に理解を頂けるのではないかと考えるが、収支改善ができないといつまでも継続するかどうかの議論は続く。
- Q ロンビニのような経営での対応はできないか。
- A ロンビニは全国一括管理方式で運営しており、単協での対応は難しい。また、ロンビニとスーパーでは、客層が異なり同様にはならないと思う。ホクレンでAマート構想とごう計画があり、内容を確認しながら、当組合で対応できるか検討したい。
- Q 固定資産取得で衛生関係補修とは何か。
- A 愛別店の鮮魚・精肉作業場所の床工

事を指す。

- Q 貯金口座からの引落は、ポイント加算とはならないのか。
- A 加算対象。内容を確認して対応する。
- Q 店舗の人口付近の勾配に、高齢者の安全確保のための対応をお願いしたい。
- A 冬期間に滑り止め対策を講じる。
- Q ショールームは、配付だけでなく、購買拡大の工夫が必要では。
- A 取り組みを再検討する。
- Q 他のJAでは、葬儀を業者と提携して行っている。当組合も考えてはどうか。
- A 葬儀部門も新たな取り組みの一つであると思う。今新たな発想をもって職員が変わらなければならぬと思っており、指導を行っている。このことにより、組合員の意見一つ一つが対応できれば、来客数も増え、JAも変わっていくと考えている。
- Q 以前懇談会で、Aコープの対応を指摘したが、改善されていない。レンジでミスが多く、農薬入り冷凍食品の対応が周知徹底されなかった。職員の危機感が足りぬと思う。お客さんが離れたくないと思う。早急な改善してほしい。
- A 問題の冷凍食品は即日店内から撤去したが、周知については対応不足だった。職員の対応等を改善する。
- Q 移動販売車は、菊水地区にも来ることを考えているのか。
- A 他の地区の運行状況との兼ね合いもあり、早急な返答はできないが、検討することは可能。

Q Aコープの赤字と移動販売車の運行を将来的にどう考えているのか。

- A 地域として、部門収支としてどうかという観点で検討し始めている段階で総合的に判断していきたいと思う。
- 要望 思い切ったスリム化も含めて検討する時期に来ていると思う。
- 【定款変更に関する事項】
- Q 役員体制について、現状のままでは問題があるのか。学経理事を増やすのは賛成だが全体枠を増やさないことができないのか。
- 農家戸数が減少している中、理事の定数についても考えるべきである。
- (組合長・専務・常務 信担4名必要)
- A 職員を統括する者は役員であった方がJAの経営強化に資すると判断し、学経理事の増員とした。合併時に常務制とし後に参事制に移行したが、信用担当理事と参事の権限バランスが取れないため、常勤理事を増員とし、来年に向けて常務制、参事制どちらかを選択したい。
- また、合併前協議時の経緯を踏まえ、今は地域推薦枠の定数を見直す時期ではないと判断したが、組合員数・取引量など現在の地区配分の見直しも必要である。
- Q 学識経験の理事を増やすと、新たに参事が必要となり、費用が増加するのでは。
- A 常務制では参事を置く必要が無く、参事制では職員兼務理事となるため、大幅な費用の増加とはならない。

要望 役員を選出方法についても検討願
う。

Q 女性理事について、総会で提案があつたがどう考えたのか。

A 女性理事については、全道的に少なく、任期も短いと聞いている。理事会等で協議を行っているが、枠を設けての女性理事専任は難しいのではないかと内容となっているが、改選まで検討を進める。

Q 反社会的勢力の定款変更理由は何か。

A 行政からの指示による。

Q 組合員の減少とともに出資金の減少も続いている現状があるが、役員の数について合併当初は組合員割だったと記憶しているが、現在の組合員の割合はどうか。

A 組合員の減少傾向については両地区とも同じである。

Q 販売額等について上川地区の割合が多くなってきており役員の定数割合についても見直すべきではないか。

A いろいろな観点から今後の検討課題かと思つた。

【事業管理に関する事項】

Q 正組合員の出資最低口数の見直しなどを検討し、出資口数の減少に対応すべき。また、近年の職員は資格認定試験を受験してこないようだが、女性職員も含めて職員全体の資質向上を図るためにも、上層部が推奨すべきではないか。

A 前向きに検討する。
Q 減損会計の内容について説明願いたい。

A 事業部門の収支が2年連続赤字の場合、部門に属する減価償却費の前倒しで処理するもの。昨年度は生活部門が対象となり、愛別店で減損処理を行った。

Q 平成22年度の固定資産取得計画で、牛舎のリース資産取得の計画があったが中止となったのか、報告はないか。

A 中止となったがその報告はしていない。

Q 期待している組合員もいるので、変更があった場合は報告してほしい。

A 以後報告するつもりである。
Q 出資金は減っているが、経営面積は減っていないのはなぜか。

A 農地については、担い手等に移行。高齢による離農者の脱退・減口によるもの。出資金総額が5億円を下回ると信用事業に支障が生じる。組合員の理解のもと増口をお願いしたい。

Q 自己資本比率・固定比率はどのようなか。

A 現状の比率については、基準値を上回っている。

Q 職員のベースアップは実施するのか。

A 定期昇給は実施するが、ベースアップは検討中である。

信用

Q 貯金残高の内訳で営農者と員外の割合はどのくらいか。

A 貯金残高17.5億の内11.2億が組合員残高で、営農組合員残高ではない。

Q 国営緊急再編整備事業に係る資金需要に対する融資対応について伺い。

A 組合員からの資金需要に対して、内

部協議する。

Q センTRYレバン内にあるATMの手数料はどのくらい負担しているのか。

A JJAが負担している。

【その他】

Q 部門収支の改善方法として、部門配分による改善は図れないか。

A 部門配分については、基準等もあり単協の判断で行うことはできない。収支改善については販売手数料等の見直し、店舗については内部で改善策を検討している。

Q 地域として高齢化、町外転出等により地域の存続が難しくなっている。JJAで葬儀等の人的支援をお願いできないか。

A 葬儀の手伝いについては対応する。

Q 組合員訪問の機会を増やしてほしい。

A 事業計画にも取り入れており、訪問等によって増やしていく。

Q JJAの事業分離が叫ばれているがどのような状況なのか。

A 規制改革会議によりJJAが民間を圧迫しているとの動きの中で信用部門と営農部門を切り離すよう議論されているが、JJAの収支の根幹を担っている。信用部門が分離されれば経営が成り立たなくなることから、民間に対して理解を求める必要がある。

Q 組合員とJJAの関係で打ち合わせなどの時間は厳守してほしい。遅れる場合でも連絡がない。このような対応なら他業者との信頼もなくなるのではないか。

A 再発防止に努める。

Q 農協職員の携帯電話番号を組合員に知らせてはどうか。個人所有の電話にかけたい。

A どのような方法で周知するか協議として検討する。

Q 今年度は、昨年と比べて剰余金は少なかったのか。

A 24年度決算の方が多い。

Q 大根の売り上げ等の影響が大きいか。

A 金融部門のマイナスが大きい。事業管理費など職員の経費が増加しているわけではない。

Q 販売部門と生活部門の部門収支改善も必要。

要望 常勤役員はもっと組合員のところへ顔を出してほしい。
任期中に一つ事業成果を残してほしい。



3月17日 / 上川支所 (越路・上川市街地区)

愛別町産米消費拡大に向けて… 米道外実需者訪問

2月25～26日、東京方面で米の販売促進並びに産地指定向上を目指し道外実需者訪問を実施しました。

今回は、伊藤忠食糧(株)、(株)むらせ、(株)スズノブ、ホクレン販売本部を訪問し平成25年産米の評価と販売状況について情報交換を行いました。

北海道産米の引き合いは極めて強くなっていますが、食の多様化、米の消費減退などにより販売環境は厳しくなり、また、評価は固定されてきています。他府県産に比べて価格帯が置き去り状態となるなど、「良いものを安く効率良く」生産することはもとより、今後も栽培基準を遵守し、更なる良食味米を生産することが重要です。

生産者の皆様におかれましては、平成26年産米の生産に向けてより一層のご尽力を賜りますようお願い申し上げます。



伊藤忠食糧(株)での情報交換

白熱したチーム対抗戦!! 年金友の会ゲートボール大会



プレーに臨む皆さん

3月8日、第28回愛別地区年金友の会ゲートボール大会が農村環境改善センターで開催され、上川地区の会員も招待され総勢20名が参加しました。

抽選による4チーム対抗で熱戦が繰り広げられ、今大会は「なめこチーム」が優勝しました。

優勝 なめこチーム

(田上 信、山中節子、小沢克司、妻島美智子、宮川照子)

準優勝 しいたけチーム

(若林秋子、押川工幸、佐藤正一、鞠古キヨ子、深瀬則雄)

三位 えのきチーム

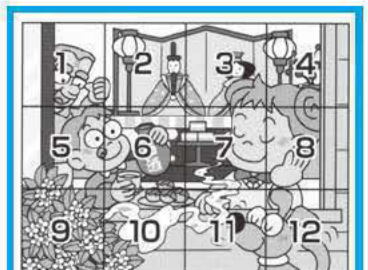
(西尾勝子、須賀節子、小椋馨子、西尾義和、須賀茂昌)

四位 まいたけチーム

(渡部運乃、佐伯慶子、久米美智子、沢田勝子、入谷英路)

? まちがいさがし ?

右のイラストには左のイラストと違う部分があり12カ所あります。間違っている部分を探しましょう。



先月の答え

- 1…祖父の目が違う
- 3…おひなさまの冠の形が違う
- 6…甘酒が白酒に変わっている
- 10…ジンチョウゲの香りの流れが違う
- 12…犬のしっぽが違う

出題・イラスト：酒井栄子

酒米のふるさとに200人… 新酒「ふしこ」を愛でる夕べ



きのこの天ぷら

2月21日、蔵らで「新酒『ふしこ』を愛でる夕べ」が開催され、愛別町内外から約200人が参加しました。

主催した「あいべつ地酒を創る会」の工藤会長は、「昨年収穫した酒米は特上の出来だった。今年は愛別町が開基120周年を迎える節目でもあるので、大いに盛り上げてほしい」と挨拶しました。今年搾った「ふしこ」は昨年産と比べて甘くなっていることが特徴で、参加者は「喉ごしが良くておいしい」と味わっていました。

また愛別きのこなどを使った手料理も並び、新酒のお披露目に華を添えました。



蔵らに詰めかけた参加者



主催者挨拶をする工藤会長

今月の表紙

せきの まさひと みゆき
昔農 昌人さん・深雪さん（愛郷地区）

- 出身地／昌人さん：愛別町、深雪さん：熊本県合志市
- 家族構成／昌人さん、深雪さん、敏夫さん（父）、勝子さん（母）、アヤ子さん（祖母）
- 生産作物／米、大豆、かぼちゃ、いんげん 他
- お2人が知り合ったきっかけは？

平成13年に深雪さんが友人と旅行も兼ねてぴっパスキー場へ行ったときにちょうど昌人さんも訪れており、深雪さんの友人を通じて知り合いました。

- 結婚を決意した大きなポイントは？

お互いに共通した趣味（スキー）を持っていたこと、深雪さんがカナダに留学したときに、身近にあふれる自然に憧れたことからです。

- 1週間くらい休みが取れたら、どんなことをしてみたいですか？

ヨーロッパ方面へ海外旅行に行きたいです。冬だったらスキーと道内の温泉を楽しみたいです。

- 将来の夢は？

Yes!cleanのゆめぴりか栽培に力を入れていきたいです。また、スキー場のそばに家（別荘）を建てて悠々自適な生活を送りたいです。



より活発な畜産振興を目指して… JA上川中央畜産振興会設立

3月7日、JA上川中央畜産振興会の設立総会が上川支所で開催され、新組織の設立及び事業計画、収支計画が承認されました。

この会は愛別町畜産振興会と上川町畜産振興会が合併したことで誕生した組織で、両地域が連携していくことで更に発展的な畜産経営・振興を目指した事業が展開されるのが期待されます。

設立総会では阪本会長・松岡副会長から新組織への展望が力強く述べられました。

JA上川中央畜産振興会の役員は次の通りです。

- 会長 阪本 伸一
- 副会長 松岡 康弘 (写真右端)
- 副会長 齋藤 泰徳 (写真左端)
- 監事 陰山 洋
- 監事 榎本 浩樹



挨拶をする阪本会長



女性の力を更に活かすために… JA女性部で総会開催

教養を深める研修会 愛別支部



愛別支部総会



指導する石山氏 (写真右)

3月4日、JA女性部愛別支部の定期総会が本所大会議室で開催されました。

総会終了後には、部員研修会が開催され、講師にJA北海道中央会旭川支所の西村次長と当JAフレッシユミズ部会の石山部長を招き、西村次長からは「女性農業者のJA運営参画について」と題して、女性農業者がJAに運営参画していく重要性などの説明を、石山部長からは昨年11月に札幌市内であった「北海道家の光大会」で展示して好評だった「折り鶴レター」の折り方を実演・指導していただきました。

おいしい手料理で茶話会 上川支部

2月26日、JA女性部上川支部の定期総会が上川支所大会議室で開催されました。

総会終了後には、昼食を兼ねた「茶話会」も開催され、参加した部員が腕をふるった赤飯や漬物、お菓子など合わせて10品以上が並び、総会の来賓者らとお昼のひとときを楽しみました。会中では部員が持ち寄った景品を懸けたビンゴゲームも行い、会場は盛り上がりました。



上川支部総会



茶話会の様子



海外も見据える農業法人社長を招いて… 上川町畑作園芸振興会で設立10周年記念式典



講演する島社長

3月12日、上川町畑作園芸振興会の定期総会が上川支所で開催されました。

総会終了後設立10周年を祝した記念式典が開催され、上川町畑作園芸振興会前会長の藤田輝雄さん（菊水地区）への功労者表彰と、有限会社西神楽夢民村（むらみんむら）の島代表取締役社長を招き記念講演が行われました。この会社は平成13年に旭川市西神楽で設立された農業生産法人で、平成22年には販売部門を独立させて「株式会社北海道夢民村」を設立、全国各地への通販や全国百貨店での北海道物産展などのイベント販売、自社ブランド酒の輸出販売等を手がけています。

島社長は、「農産物に付加価値をつけて販売することが求められているが、米に関してはこだわりのある栽培で通販でのリピーターを獲得している」と話していました。

各団体・部会でも定期総会開催



2月28日 / JA青年部愛別支部



3月5日 / JA青年部上川支部
新部長の渡辺友章さん（右端）



3月4日 / 上川町もち米団地生産組合



3月12日 / 上川町そば部会



3月18日 / 上川町大根生産組合



3月10日 / 愛別町そ菜振興協議会

ユネスコ無形文化遺産の
「和食」

主役
は
旬
の
新鮮
食材



©よい食P

タケノコは春の“使者”

日本の里山で春の訪れを感じさせる代表格がタケノコです。タケノコは、主にモウソウチクなど春先に地面から芽の出かけているものを食用にします。日本や中国では昔からいろいろな料理に使われています。新鮮なものは生や軽く湯がくだけで刺し身や焼き物として、風味を最大限味わうことができます。煮物としては土佐煮や若竹煮が有名です。また、吸い物の具にしたり、八宝菜などの炒め物にも使われます。加工品としては水煮の缶詰などのほかメンマなどにも加工されます。

栄養成分はタンパク質に富み、カリウムや食物繊維の他、ビタミンB1、ビタミンB2、ビタミンC、ビタミンEなどを含んでいます。食物繊維はコマツナやキャベツと同程度であるとされています。

収穫作業が「竹の子掘り」と称して季節の観光行事としても親しまれているほか、「雨後のタケノコ」などタケノコにまつわることわざや比喩も多く、それだけ日本人に親しまれている食材といえます。
(監修=女子栄養大学栄養クリニック教授 蒲池 桂子)



ひとくちびと

“春”を味わう「たけのご飯」

タケノコを使った料理の代表格が「たけのご飯」です。醤油や酒で調味した出汁(だし)で鶏肉、油揚げ、にんじん、ゆでたタケノコをさっと煮、その煮汁と研いだ米を加えて炊き上げ、蒸らすときに具を戻します。甘い香りと出汁との調和のとれた「たけのご飯」は、春を感じさせる料理として根強い人気があります。



「みんなのよい食プロジェクト」は、体と心を支える食のたいせつさ、国産・地元産農畜産物の豊かさ、それを生み出す農業の価値をお伝えし、国産・地元産農畜産物と日本の農業のファンになっていただく、という運動です。

歩夢

第2回 「開拓で生まれた ～村の農業」



石北線敷設に向けた現地調査の様子

開拓から3年後(明治30年)、入植も300戸程度となり母村鷹栖村から分村独立して愛別村(現在の愛別町・上川町)が誕生しました。七条元次が初代戸長となり未開の地の開拓と村作りが進められ、道路が不完全なため石狩川を移動手段として利用する渡船場や郵便局などが数年で整備されました。愛別村が誕生する頃には水稻の試作も始まり3畝10歩(約3.3アール)から7斗2升(約129L)が収穫され、他にもハッカ・養蚕・除虫菊などの特用作物が盛んに栽培されました。生活のための炭焼きや冬山稼ぎが当たり前でバチバチに丸太を山と積んで村まで運んでいました…

開拓当初の愛別町には、2戸の商家があり日用品の購入などは行商人に頼るか、徒歩で旭川まで出るほかなく、開拓が落ち着きを見せる明治42年頃になると現在の本町地区に学校、郵便局、巡査駐在所、神社、寺院、旅館、商店などが建ち並ぶ一市街地となりました。

明治44年には愛別村や北海道中心部の開発を進めるため「旭川～遠軽間軽便鉄道敷設は石狩・北見の交通を短縮し本道開発上極めて重要であること」を当時の太田龍太郎村長(3代目)が中心となり上京陳情運動などが行われ、大正6年に帝国議会で旭川～遠軽間軽便線として敷設されることが決定され、5年後の大正11年に石北本線が一部開通され、物資輸送に大きな変革をもたらす村も急速に発展しました。

開拓当初の上川町では、明治33年に水稻の試作が始まり、母村と同様にハッカや養蚕などが栽培され、度重なる水害・台風・冷害による不作を繰り返しながらも平坦地への入植は増え、明治後期には高台地(現在の白川・豊原地区)への開拓も始まり馬鈴薯や豆類が作付されましたが、気象条件が厳しく離農が相次ぎました。

大正後期には、木工場の創業や最後の入植地となった双雲別(現在の層雲峡地区)で温泉が発見され大正3年に温泉許可を受けて湯小屋が建設され、大正11年からは本格的な創業が始まりました。翌大正12年には鉄道開通と合わせて上川駅も開設されて市街地は賑わい始めました。

開拓から20年後(大正3年)、突如として第一次世界大戦が始まり、日本は戦争の影響で国経済界は好景気となり村の農産物も著しい好景気でハッカ成金・澱粉成金・豆成金などが誕生しました。しかし、戦争が終わると農村は極端な不況が襲い小作争議や労働者のストライキが増加し社会不安が高まりました。その当時の母村愛別村(現在の愛別町・上川町)の人口は10,000人を突破し、開拓から30年後(大正13年)には母村愛別村(6,527人)から分村独立して上川村(4,112人)が誕生しました。

この連載は「愛別町史」、「上川町史」他を元に編集・作成しています。

部署 営業日	資 材		給 油 所		A コ ー プ		
	(本所・支所)	機械センター	愛 別	上 川	あいべつ	かみかわ	愛ちゃん号
4月26日(土)	8:30~ 12:30迄	8:30~ 12:30迄	8:00~ 18:30迄	8:00~ 19:00迄	9:00~18:00迄		休 業
4月27日(日)	休 業		8:30~ 17:30迄	8:00~ 18:00迄	休 業		
4月28日(月)	通 常 営 業						
4月29日(火) 【昭和の日】	休 業		8:30~ 17:30迄	8:00~ 18:00迄	9:00~17:00迄		通常営業
4月30日(水)	通 常 営 業						
5月 1日(木)	通 常 営 業						
5月 2日(金)	通 常 営 業						
5月 3日(土) 【憲法記念日】	8:30~ 12:00迄	8:30~ 12:00迄 (日直対応)	8:30~ 17:30迄	8:00~ 18:00迄	9:00~17:30迄		休 業
5月 4日(日) 【みどりの日】	休 業		8:30~ 17:30迄	8:00~ 18:00迄	休 業		
5月 5日(月) 【こどもの日】	8:30~ 12:00迄 (日直対応)	8:30~ 12:00迄 (日直対応)	8:30~ 17:30迄	8:00~ 18:00迄	休 業	9:00~ 17:30迄	休 業
5月 6日(火) 【振替休日】	8:30~ 12:00迄	8:30~ 12:00迄 (日直対応)	8:30~ 17:30迄	8:00~ 18:00迄	9:00~17:30迄		通常営業

※5月5日(月) Aコープ愛別店は店舗工事のため休業致します。皆様のご理解よろしくお願い致します。

するーらいふ

今年の北海道の冬は、厳寒のニュースが続いた。十勝地方陸別町では「日本で一番寒い町」を記録した。この町には第三セクターが運営する「ふるさと銀河線」の列車が走っていた。その路線名を使った題名の文庫本に出会った。この本の帯には「あなたの明日に、優しい風が吹きますように」という著者・高田郁(たかだ かおる)のコメントが添えられていた。

読めばそれは、いろいろな鉄道路線を舞台にした、さわやかな短編が散りばめられていた。その中の一編「ムシヤシナイ」は奇妙に心に残る作品だった。大阪環状線の駅のホームにある「駅蕎麦屋」は、朝晩のラッシュ時間はててご舞いである。そこで夕方からの切り盛りを任された主人公も訳有りだった。息子夫婦とは絶縁状態で、駅近くのアパートでのひとり暮らしだった。ある日の「駅蕎麦屋」へ、5年振りの孫が、親には黙って訪ねて来た。中学3年生の彼は店の前を行ったり来たり、暖簾を仕舞う時間になっていた。

店を終え、二人並んでアパートへ帰った。可愛い孫のために簡単な料理を用意した。久しぶりに隣に寝る孫は、一晩中呻き声を立てた。孫は親を含めた周囲の過干渉に怯え、疲弊してしまっていた。勉強に追い立てられるような日々を送っていたのだ。心を開いた孫は、次の日の夜「オレ、親父を殺すかも知れない」と握り拳を震わせながら、祖父に心の声を発した。孫が最後の頼みの綱として、親には内緒で列車を乗り継いでやって来たのだ。

祖父は、はっとさせられた。さっきまで、「ムシヤシナイ」の意味を教えたりしていたが、吹き飛んでしまった。「軽い食事をとって腹の虫を宥(なだ)めておく」大阪地方の言い習わしだと孫に教えた。殺伐とした孫の台詞を聞いた祖父は、夜更けの「駅蕎麦屋」に孫を誘った。賑わいが終わった駅の店の厨房に二人で並んだ。棚から包丁を取り出すと、孫に葱を切る術を教え始めた。孫の手に自分の手を添えて、「小峰握り」の握りを伝授して葱を切らした。旨く葱は切れて行く。

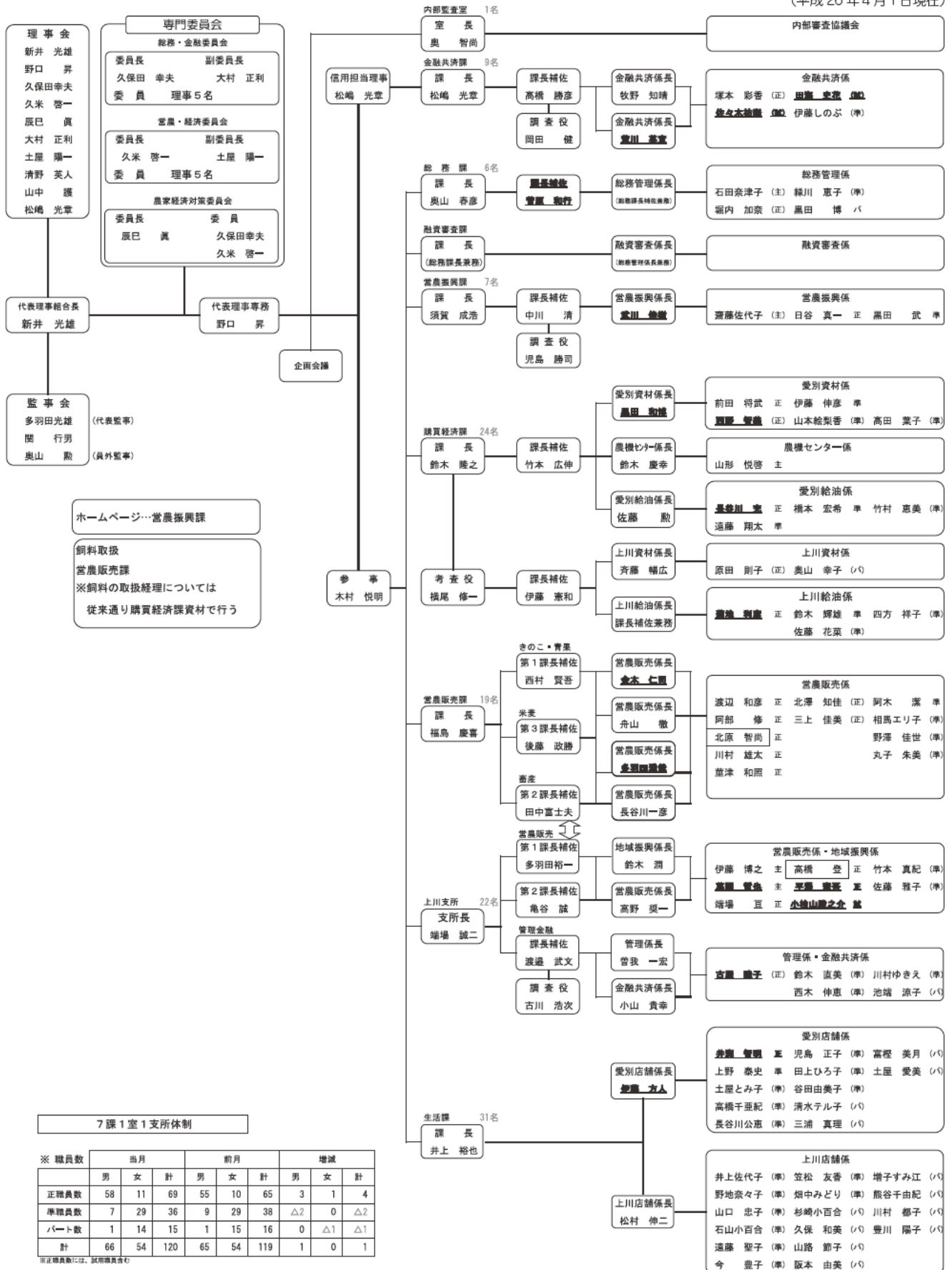
孫は怪我をすることなく、総てを切り終えた。暫くすると孫の強張りの表情が晴れ、少しずつ穏やかになった。親とのこれまでの経緯を喋り出した。包丁を持った孫の手をそっと包んだ。孫が勇気を持って親と対峙できると確認した。次の日孫は、晴れやかな顔で「虫養いさせてもらいに何度も来るよ」と言う言葉を残してホームに消えた。今年の冬も受験と向かい合った多くの子供たちがいた。

※このコラムは連載です。



JA 上川中央 業務機構図

(平成26年4月1日現在)



7課1室1支所体制

※職員数	当月			前月			増減		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
正職員数	58	11	69	55	10	65	3	1	4
準職員数	7	29	36	9	29	38	△2	0	△2
パート数	1	14	15	1	15	16	0	△1	△1
計	66	54	120	65	54	119	1	0	1

※正職員数には、試用職員含む

■ 人事異動（平成26年4月1日付）

氏名	新所属・役職	旧所属・役職
菅原 和行	総務課課長補佐兼係長 兼融資審査課係長	営農販売課調査役
荒川 英宣	金融共済課金融共済係長	生活課愛別店舗係長
武川 佳樹	営農振興課営農振興係長	総務課総務管理係長
黒田 和博	購買経済課愛別資材係長	営農販売課営農販売係長
金木 仁司	営農販売課営農販売係長	上川支所営農販売係主任
多羽田 雅哉	営農販売課営農販売係長	営農振興課営農振興係長
伊藤 方人	生活課愛別店舗係長	生活課統括係長
葛間 哲也	上川支所営農販売係主任	購買経済課上川給油係主任
長谷川 充	購買経済課愛別給油係	購買経済課上川資材係
菊地利彦	購買経済課上川給油係	購買経済課愛別給油係
古屋 睦子	上川支所管理金融係	金融共済課金融共済係
西野 智美	購買経済課愛別資材係	営農振興課営農振興係
平澤 憲吾	上川支所営農販売係	上川支所営農販売係（準）
井淵 智明	生活課愛別店舗係	生活課愛別店舗係（準）
小桧山 駿之介	試用職員に採用（上川支所営農販売）	
佐々木 祐梨	試用職員に採用（金融共済課）	
田海 史花	試用職員に採用（金融共済課）	

勤務地変更

氏名	新勤務地	旧勤務地
横尾 修一	上川資材店	愛別資材店

Information
営農振興課からのお知らせ
1.土づくり支援対策事業（H25～H27）

対象者：農業者等
 助成金：購入額の10%以内（産地交付金及び各助成金の減額後金額に対して）
 要件：愛別堆肥セクター及び愛別・上川両地区畜産農家より購入した堆肥を使用していること。
 堆肥が施用された田・畑で生産された農産物を販売していること。
 申請：愛別堆肥セクターより購入した場合は提出不要ですが、両地区畜産農家より購入した場合は申請書に領収書を添付し提出して下さい。

2.稲わら収集対策事業（H25～H27）

対象者：農業者等
 助成金：10a当たり400円以内
 申請：詳しい内容は各担当までお問合せ下さい。

3.特徴ある米づくりに対する助成金（H25～H27）

対象者：農業者等
 助成金：1俵当たり100円以内
 要件：「Yes!clean米」「特別栽培米」のJA出荷
 申請：手続き不要（精算数量確定後 JA より振込）

4.ハウスリース事業（H25～H27）

対象者：農業者等
 リース料：取得価格（国・町等補助を除く）÷7年の固定。ただし取得年は月割り計算とする。
 要件：水稲、野菜ハウス及び付帯施設（ビニールを除く）リース

5.低利資金

対象者：農業者等
 資金名：営農振興資金
 使途：土地改良及び土地取得等
 貸付期間：20年以内（うち据置3年以内）
 基準利率：固定1.4%（情勢等による変動あり）
 保証：原則として農業信用基金協会

＜お問合せ先＞
上川中央農業協同組合

1～4は 本所営農振興担当 6-5315
 支所営農販売担当 2-1113
 5は 本所金融共済担当 6-5312
 支所金融共済担当 2-1112

JAのあゆみ 3月

- 2日 きのこ催事(愛別)
- 3日 平成25年度決算監査(〜7日)
- 4日 大根販売市場訪問(〜8日)
- 4日 定例企画会議
- 5日 JA女性部愛別支部定期総会
- 5日 上川町もち米生産団地組合定期総会
- 5日 JA青年部上川支部定期総会
- 5日 良質米栽培講習会(鷹栖)
- 6日 営農・経済専門委員会
- 6日 愛別町農民連盟監査・常任執行委員会
- 6日 良質小麦栽培講習会(美瑛)
- 7日 上川町畜産振興会定期総会
- 7日 JA上川中央畜産振興会設立総会
- 8日 フレッシュユース定期総会
- 8日 年金友の会ゲートボール大会(愛別)
- 10日 愛別町そば振興協議会定期総会
- 11日 第2回定例理事会
- 12日 愛別町農業用機械利用組合連合会役員会
- 12日 上川町畑作園芸振興会定期総会・設立10周年記念式典
- 12日 上川町大豆部会総会
- 12日 上川町そば部会定期総会
- 12日 上川町トマト・ミニトマト部会総会
- 12日 上川町胡瓜部会総会
- 12日 上川町南瓜部会総会
- 12日 上川町馬鈴薯部会総会
- 12日 上川町馬鈴薯生産組合総会
- 12日 上川町アスパラ部会総会
- 12日 愛別町米麦生産振興協議会役員会
- 12日 愛別町農民連盟定期総会
- 12日 地区別農協懇談会(〜17日)
- 12日 国営緊急再編整備事業推進協議会幹事会
- 17日 上川町大根生産組合定期総会
- 17日 内部審査(〜26日 総務)
- 17日 平成26年度大豆・そば栽培講習会
- 17日 上川町農民連盟代議員会
- 17日 国営総合農地防災事業事後評価調査報告会
- 17日 南瓜栽培研修会
- 17日 国営緊急再編整備事業推進協議会役員会
- 17日 アスパラ視察研修会
- 31日 (〜1日 空知・後志方面)

第1回臨時理事会

平成26年2月27日

■報告事項

- 1 農家経済対策委員会への報告について
- 2月26日開催の委員会内容を報告した。
- 2 決算手当の支給について
- 支給金額について報告した。
- 3 役員報酬審議会の答申内容について
- 2月21日に開催された役員報酬審議会の答申内容を報告した。

■議事

- 1 平成25年度決算並びに剰余金処分案について
- 平成25年度の決算承認と剰余金処分案は、内部留保の他出資配当を行うことが承認された。
- 2 平成26年度事業計画について
- 平成26年度の事業計画について承認された。
- 3 平成26年度対策対象農家の選定について
- 2月26日開催の委員会に基づき、対象農家の選定内容が承認された。

組合員のうごき

(平成26年3月11日現在)

正組合員戸数	395戸
総組合員数	2,651名
正組合員数	611名
うち団体数	36団体
准組合員数	2,040名
うち団体数	72団体

第2回定例理事会

平成26年3月11日

■報告事項

- 1 平成26年度監事監査計画について
- 監事会より平成26年度の監査計画について報告された。
- 2 内部監査業務年間活動報告について
- 平成25年度に実施された、内部監査に係わる監査内容を報告した。
- 3 長期資金の融資について
- 1件の融資案件について報告した。
- 4 営農・経済専門委員会の報告について
- 3月6日開催の内容について報告した。

■議事

- 1 組合員の加入報告並びに組合員資格について
- 2名の加入が承認された。
- 2 組合員の相続並びに譲渡について
- 1名の相続について承認された。
- 3 組合員の出資減額について
- 3名の減額について承認された。
- 4 平成25年度決算監査の結果並びに決算監査報告の承認について

大変お世話になりました



愛別店舗係 端場 真弓美 (2月28日付)

平成25年度の決算監査における監査報告が監事よりなされ、承認された。

第5回通常総会提出議案の決定について

- 5 第5回通常総会提出議案の決定について
- 第6回の提出議案6件と報告2件について承認された。
- 6 総会事務取扱「議決権行使にあたっての留意事項」について
- 提出期限を4月2日の午後5時30分と、無効等の扱いについて承認された。
- 7 平成26年度 内部監査室監査計画の設定について
- 内部監査室が実施する年間監査計画について承認された。
- 8 平成26年度コンプライアンス・プログラムの設定について
- 3月4日開催のコンプライアンス委員会決定された内容について承認された。
- 9 固定資産の取得について
- 愛別給油所の埋設型リフトの取得について承認された。
- 10 長期資金の融資について
- 1件の融資について承認された。
- 11 理事に対する長期資金の融資について
- 1名の理事に対する融資について承認された。

営業時間変更のお知らせ

OAコープあいべつ かみかわ各店
 平日・土曜 9:00~18:30
 祭日 9:00~17:30
 期間: 5月1日~10月31日